

持つハンディキャップから 使うハンディキャップへ

2014年1月1日
世界基準の
ハンディキャップに！

JGA ハンディキャップ規定 (USGA 準拠) 導入

JGAでは2014年1月1日から、新たなJGAハンディキャップ規定 (USGAハンディキャップシステム準拠、通称スロープシステム) を正式導入する。新システムで何が変わり、どのような利点があるのか。ゴルフのさらなる普及へ大きな効果が期待できる新システムについて解説していく。

スロープシステムが ゴルフ界活性化の切り札になる

ゴルフはハンディキャップ (以下 HDCP) を活用し、年齢、性別を超えてさまざまなレベルのプレーヤーが同じフィールドで公平に競い、楽しむことができるという点でほかのスポーツと一線を画しています。いうならば、HDCPはゴルフの本質的価値・魅力の源でもあるのです。

【ハンディキャップの歴史】 (概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入 (全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代~	全米各地区でHDCPシステムの改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入 (USGA制度を参考に開発)
1960~70年代	USGAが障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 現行JGA制度施行 (USGA制度を参考に開発)
1979年	USGAがスロープシステム開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム正式施行	
2010年~	現在世界61の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定 (USGAとJGAが正式契約締結)

CR=コースレーティング

HDCPの概念が広がったのは17世紀といわれています。古の時代からHDCPはゴルフに欠かせないものだったのです。

1900年頃には英国女子連盟がHDCP算出の基準となるコースレーティングを世界で初めて開発。1911年にはUSGAが全米アマ優勝者のスコアを基準にしたコースレーティングを導入しています。

日本では1924年のJGA設立と同時にナショナルHDCPシステムを導入。目的は日本アマなどへの出場資格の尺度とするためでした。

1950年代にはUSGA制度を参考に開発したJGAHDCP制度を導入。そして1978年には現行のJGAHDCP規定を制定しました。その後も改良を加え、現在の形に発展してきたのです。

しかし、さらに研究を重ねた結果、現行制度では公平性、互換性に問題を生じることが分かってきました。問題点を改善するため、2007年から「より公平で、より使いやすい」という観点から目指すべき将来像を模索。海外のHDCPとの比較検討を重ね、USGAが開発したスロープシステムが最適と判断して導入を決定した次第です。

スロープシステムを導入する目的は、HDCPを使ったゴルフの楽しさをより多くのゴルファーが享受できる環境を整え、JGA最大の使命である「ゴルフの普及」を一層推進していくことです。

現在、我が国は少子高齢化の時代を迎えており、ゴルフ界を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されます。このような時代だからこそ、「ゴルファー人口の維持・拡大」に向けた新たな取り組みが必要。そのために不可欠なのが「より公平で、より使いやすい」HDCPだと考えています。

現行制度でのHDCPは「使う」という機能が



十分ではありませんでした。スロープシステムにおけるHDCPは実際に「使って楽しめる」ことが特徴。HDCPというゴルフ特有の素晴らしいシステムを通じ、ゴルフの本質的価値をより広め、ゴルフのさらなる普及を推し進めることが期待できるのです。

2014年1月1日の正式導入に向け、加盟倶楽部の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

スロープシステムで ハンディキャップがどう変わるのか

新たに導入するスロープシステムは現在、世界61の国と地域で採用されています。この中には開発したアメリカのほか、イングランド (女子)、スコットランド、オーストラリア、韓国などゴルフ先進国といわれる国や地域がすべて含まれています。これだけ多くの国が採用していることから、スロープシステムの公平性、正確性の高さが分かります。スロープシステムはまさに世界基準のシステムなのです。

スロープシステムが現行のJGAHDCP規定と大きく異なるのは「持ち運びができる」という点にあります。

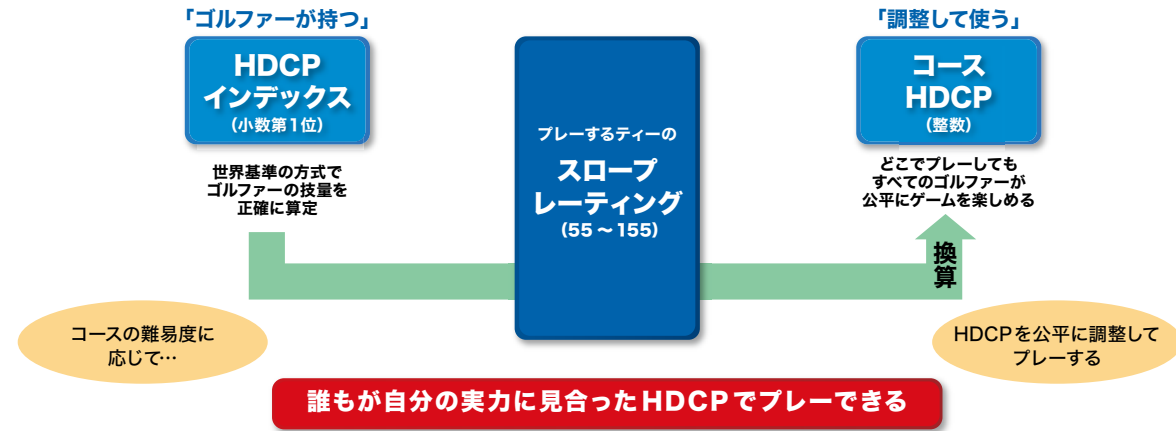
現行制度では倶楽部間でのHDCPの互換性がありませんでした。自分の持つHDCPはどこに行っても変わらないのです。

たとえば、コースレーティング74.0のA倶楽部でHDCP15.0を取得したプレーヤーAがコースレーティング69.0のB倶楽部でプレーする場合もHDCP15.0になるわけです。しかし、現実的にはプレーヤーAが難易度の低いB倶楽部でプレーする場合のHDCPは15.0より少ないと考えるべき。にもかかわらず、現行制度では難易度に応じてHDCPの調整をすることはできませんでした。

また、プレーヤーAとB倶楽部でHDCP15.0を持つプレーヤーBがプレーする場合、この2人のHDCP差は0ですからスクラッチで対戦することになります。しかし、スクラッチで対戦すればプレーヤーAが有利になることは否めません。公平な対戦とはいえないのです。

スロープシステムは互換性があるのが特徴。各プレーヤーの持つHDCPインデックス (標準難易度のコースにおけるプレーヤーの潜在技量を示した尺度) をコースの難易度に応じて調整できるのです。自分のHDCPインデックスをプレーする場所の難易度を示すスロープレーティングに応じて調整したものを「コースHDCP」といいます。このコースHDCPがその日のプレーヤーのHDCPとなり、より公平にプレーすることが可能となるのです。

【新 HDCP 活用イメージ】



現行制度で HDCP 計算の基準になるコースレーティングはスクラッチゴルファーにとっての難易度を数値化したものでした。スロープシステムではこれに加え、男性の場合は HDCP20 前後(女性は HDCP24 前後)のプレーヤーにとっての難易度であるボギーレーティングを設定しています。スロープレーティングはコースレーティングとボギーレーティングの差に基づいて算出したものです。

現行制度では HDCP0.0 のプレーヤーと HDCP20.0 のプレーヤーではどのコースでプレーしても HDCP 差は 20 のままです。しかし、技量の高いプレーヤーほど難易度の高さに対応できますが、技量の低いプレーヤーは難易度の高いコースに対応するのが難しいのが現状。つまりコース難易度が高いほどその差は大きくなり、逆に難易度が低くなるほど差は少なくなるのです。

単純に考えれば、コースレーティング 69.0 なら HDCP0.0 のプレーヤーが 69 でプレーでき、コースレーティング 74.0 なら 74 という意味合いになります。この概念を HDCP20.0 のプレーヤーにそのままあてはめると、コースレーティング 69.0 ならば 89 で、コースレーティング 74.0 なら 94 でプレーできるということになります。しかし、実際には HDCP20 のプレーヤーがコースレーティング 74.0 という難易度の高いコースで 94 をマークするのは困難であることは否めません。

この問題点を解消し、より公平なプレーを提供するのがスロープシステム。持つだけの HDCP からどこでも使える HDCP へ——これが新制度で大きく変わる点なのです。

スロープシステムをもっと知ろう

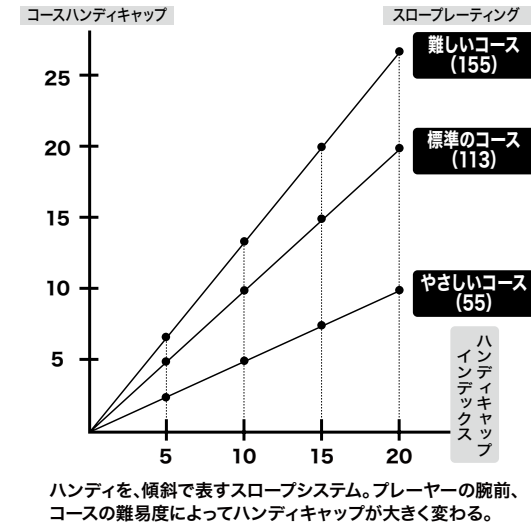
スロープシステムは USGA が長い年月をかけて開発し、1987 年に正式施行したものです。それ以前は USGA も現行の JGA 同様の HDCP 制度を採用していましたが、「どこでも公平にプレーできる」ということを目的に新たなシステムを編み出したのです。

スロープシステム最大の特徴はスロープレーティングと呼ばれるゴルファーの技量に応じたコース難易度を示す数値にあります。スロープレーティングとは前述したようにスクラッチゴルファーにとっての難易度の基準であるコースレーティングと、HDCP20 前後のプレーヤーの想定スコアを表すボギーレーティングの差に基づいて算出したもの。スロープレーティングは 55 から 155 までの整数で表されており、数値が大きいほど難易度が高くなるという解釈です。標準値は 113 に設定されています。

このスロープレーティングをグラフ化したものが 5 ページのスロープ表です。スロープレーティング 55 のコースではグラフの傾斜が最も緩く、難易度が高くなるほど傾斜が急になっていきます。スロープレーティングとは、このグラフで表されるような傾斜(スロープ)から名づけられたもののなのです。

このグラフから分かるように、スロープレーティングが低いほど HDCP の少ないプレーヤーと多いプレーヤーのコース HDCP の差は少なくなり、スロープレーティングが高いほど両者のコース HDCP の差は大きくなっていくのです。

【スロープ表】



スロープレーティングは各ティーに設定されますので、同じコースであってもどのティーからプレーするかによってコース HDCP は変動します。コースによっても異なりますが、キャディマスター室などにそれぞれのティーに対応した性別ごとのコース

【コース HDCP の換算表】

コースハンディキャップ換算表			
発行：(公財)日本ゴルフ協会		担当地区連盟：★ゴルフ連盟	
倶楽部名：○×カントリークラブ	コース名：アウト / イン	スロープレーティング：140	
Tee：バック	JGA/USGA コースレーティング：75.2		
Green：メインイベント	性別：男子	ボギーレーティング：101.2	
JGA/USGA ハンディキャップインデックス	コース ハンディキャップ	JGA/USGA ハンディキャップインデックス	コース ハンディキャップ
+3.5 ~ +2.9	+4	16.6 ~ 17.3	21
+2.8 ~ +2.1	+3	17.4 ~ 18.1	22
+2.0 ~ +1.3	+2	18.2 ~ 18.9	23
+1.2 ~ +0.5	+1	19.0 ~ 19.7	24
+0.4 ~ 0.4	0	19.8 ~ 20.5	25
0.5 ~ 1.2	1	20.6 ~ 21.3	26
1.3 ~ 2.0	2	21.4 ~ 22.1	27
2.1 ~ 2.8	3	22.2 ~ 23.0	28
2.9 ~ 3.6	4	23.1 ~ 23.8	29
3.7 ~ 4.4	5	23.9 ~ 24.6	30
4.5 ~ 5.2	6	24.7 ~ 25.4	31
5.3 ~ 6.0	7	25.5 ~ 26.2	32
6.1 ~ 6.8	8	26.3 ~ 27.0	33
6.9 ~ 7.6	9	27.1 ~ 27.8	34
7.7 ~ 8.4	10	27.9 ~ 28.6	35
8.5 ~ 9.2	11	28.7 ~ 29.4	36
9.3 ~ 10.0	12	29.5 ~ 30.2	37
10.1 ~ 10.8	13	30.3 ~ 31.0	38
10.9 ~ 11.7	14	31.1 ~ 31.8	39
11.8 ~ 12.5	15	31.9 ~ 32.6	40
12.6 ~ 13.3	16	32.7 ~ 33.4	41
13.4 ~ 14.1	17	33.5 ~ 34.3	42
14.2 ~ 14.9	18	34.4 ~ 35.1	43
15.0 ~ 15.7	19	35.2 ~ 35.9	44
15.8 ~ 16.5	20	36.0 ~ 36.4	45

【換算表の使用方法について】
●プレーヤーの JGA/USGA ハンディキャップインデックスに該当するコースハンディキャップでプレーして下さい。
●換算表はプレーするティーと性別毎に設定されていますので、必ず正しい換算表を使用して下さい。
●換算表に記載されていないプラスハンディキャップインデックスは、下記の計算でコースハンディキャップを算出して下さい。
[ハンディキャップインデックス × スロープレーティング ÷ 113]

HDCP 換算表をご準備いただくようお願いしております。プレーヤーの目につく場所にありますから、プレーヤーはスタート前にこの換算表で自分のコース HDCP を確認することができます。

下に掲載しているのはスロープレーティング 100 と 140 のコース HDCP 換算表(男性用)です。HDCP インデックス 20.0 のプレーヤーがスロープレーティング 100 のティーからプレーする場合、「JGA / USGA ハンディキャップインデックス」の「19.8 ~ 20.9」にあてはまりますからコース HDCP は 18 となり、スロープレーティング 140 ならば「19.8 ~ 20.5」の欄を見てコース HDCP は 25 となるのです。

HDCP インデックスが 0.0 のプレーヤーはスロープレーティングがいくつでもコース HDCP は 0 となります。つまり、現行制度では HDCP0.0 のプレーヤーと HDCP20.0 のプレーヤーが対戦する場合は難易度がどうあれ HDCP 差は 20 としか計算できませんでしたが、スロープシステムではスロープレーティング 100 の場合には HDCP 差が 18、同 140 ならば HDCP 差が 25 というように難易度に応じた適正な HDCP がすぐに分かるわけです。

コースハンディキャップ換算表			
発行：(公財)日本ゴルフ協会		担当地区連盟：★ゴルフ連盟	
倶楽部名：○×カントリークラブ	コース名：アウト / イン	スロープレーティング：100	
Tee：フロント	JGA/USGA コースレーティング：66.0		
Green：メインイベント	性別：男子	ボギーレーティング：84.6	
JGA/USGA ハンディキャップインデックス	コース ハンディキャップ	JGA/USGA ハンディキャップインデックス	コース ハンディキャップ
+3.5 ~ +2.9	+3	16.4 ~ 17.5	15
+2.8 ~ +1.7	+2	17.6 ~ 18.6	16
+1.6 ~ +0.6	+1	18.7 ~ 19.7	17
+0.5 ~ 0.5	0	19.8 ~ 20.9	18
0.6 ~ 1.6	1	21.0 ~ 22.0	19
1.7 ~ 2.8	2	22.1 ~ 23.1	20
2.9 ~ 3.9	3	23.2 ~ 24.2	21
4.0 ~ 5.0	4	24.3 ~ 25.4	22
5.1 ~ 6.2	5	25.5 ~ 26.5	23
6.3 ~ 7.3	6	26.6 ~ 27.6	24
7.4 ~ 8.4	7	27.7 ~ 28.8	25
8.5 ~ 9.6	8	28.9 ~ 29.9	26
9.7 ~ 10.7	9	30.0 ~ 31.0	27
10.8 ~ 11.8	10	31.1 ~ 32.2	28
11.9 ~ 12.9	11	32.3 ~ 33.3	29
13.0 ~ 14.1	12	33.4 ~ 34.4	30
14.2 ~ 15.2	13	34.5 ~ 35.5	31
15.3 ~ 16.3	14	35.6 ~ 36.4	32

【換算表の使用方法について】
●プレーヤーの JGA/USGA ハンディキャップインデックスに該当するコースハンディキャップでプレーして下さい。
●換算表はプレーするティーと性別毎に設定されていますので、必ず正しい換算表を使用して下さい。
●換算表に記載されていないプラスハンディキャップインデックスは、下記の計算でコースハンディキャップを算出して下さい。
[ハンディキャップインデックス × スロープレーティング ÷ 113]

スロープシステムを活用すれば ゴルフの楽しみ方が広がる

スロープレーティングを活用すれば、自分がプレーするコース、ティーでの目標スコアが明確に設定できます。この目標スコアをターゲットスコア(注1)といいます。

ターゲットスコアはコースレーティングにコース HDCP を足したものを四捨五入した数字。HDCP インデックスが30.0のプレーヤーがコースレーティング75.2でスロープレーティングが140のコースをプレーする場合にはコース HDCP は37(5ページのコース HDCP 換算表参照)になりますから、ターゲットスコアは112($75.2+37=112.2$ の四捨五入)となるわけです。

HDCP インデックスが30程度のプレーヤーにとっては100を切るということがひとつの目標になるでしょう。しかし、単にスコアだけに焦点を当ててしまうと、易しいコースを99で回った場合と、難しいコースで101だった場合とでは後者の方が「悪いスコア」という判断になってしまいます。これでは、その日のプレーが正しく判断されたとはいえません。

ターゲットスコア112のコースを101で回れば非常にいいプレーをしたということ。数字上では100を切れていなくても、内容的には十分に100を切るプレーをしたと判断できるわけです。

逆に、コースレーティング66.0でスロープレーティング100のコースではコース HDCP が27(5ページのコース HDCP 換算表参照)になりますからターゲットスコアは93($66.0+27=93$)。このコースを99で回った場合はあまりいいプレーではなかったと判断できるわけです。

このように、スロープシステムを活用すれば、自分のプレーを正確にジャッジできるという利点もあるのです。

また、100切りを目指しているプレーヤーが難易度の高いコースでプレーする場合に100切りは難しくなりますから、ラウンド途中でたいてしまうと目標を見失い、プレーへの意欲が減退しかねません。こんな時、「自分の実力ならこのスコアを目標にすればいい」というターゲットスコアがあれば意欲を持続してもらえるという効果も見込めるのです。

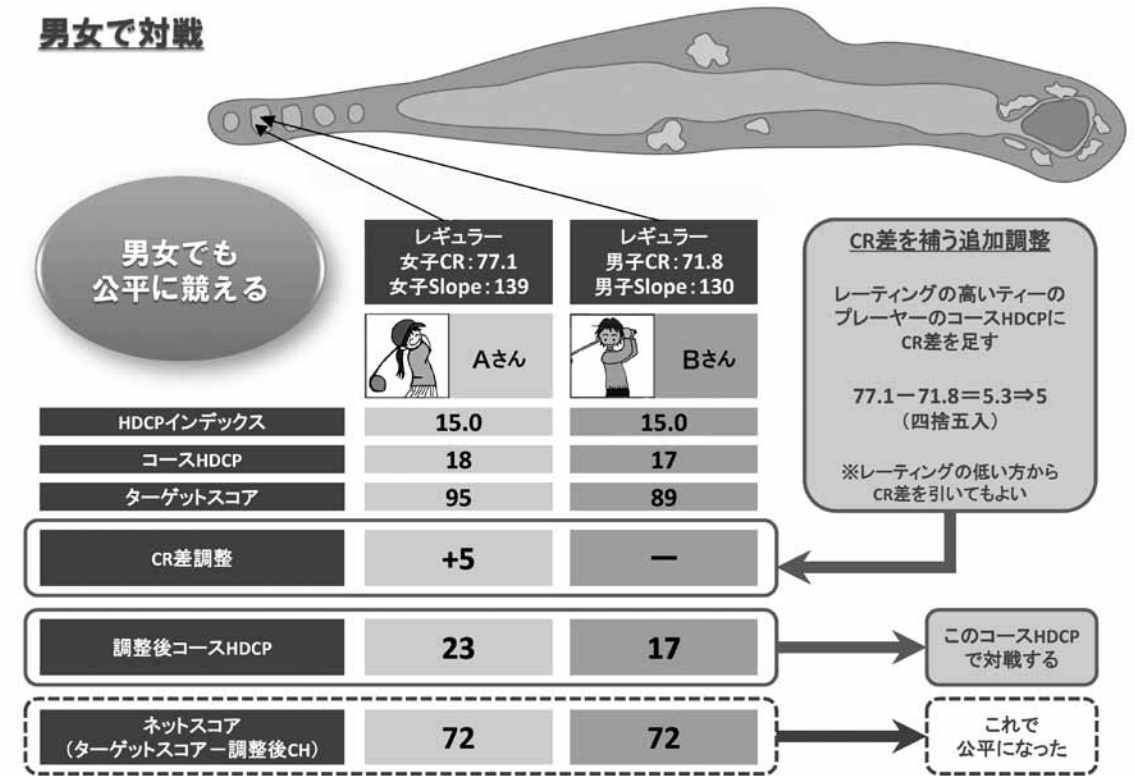
性別の異なるプレーヤー間でも、公平な HDCP のもとにプレーをできるというのもスロープシステムの特色です。



スロープシステムを活用すると大人数の男女混合競技も公平に競うことが可能。

【スロープシステムの使い方】 女性 A さん・男性 B さんが対戦した場合

男女で対戦



CR=コースレーティング / CH=コースハンディキャップ

具体例を説明しましょう。女性の A さんと男性の B さんは共に HDCP インデックスが15.0とします。この2人が同じティーからプレーした場合、スクラッチで競うのは公平ではありません。なぜなら、女性と男性では飛距離の違いなどがあるため、コースレーティング査定基準が異なるからです。つまり、HDCP インデックスの算出方法も異なり、同じ15.0でも意味合いが違います。

2人がプレーするのは女性のコースレーティングが77.1でスロープレーティングが139、男性のコースレーティングが71.8でスロープレーティングが130と設定されているレギュラーティーと仮定します。この場合、コース HDCP は女性が18、男性が17となります。女性の方が HDCP が多くなりましたが、まだこれでは不十分です。

次に、女性のコースレーティング77.1から男性のコースレーティング71.8を引き、四捨五入します。差は5.3ですから四捨五入して5となります。女性のコース HDCP 18にこの5を加えた23がこの対戦の場合の女性のコース HDCP となるのです。

これで公平になったかどうか検証してみましょう。ターゲットスコアは女性が95($77.1+18=95.1$ の四捨五入)ですから調整後のコース HDCP 23をここから引くと72になります。男性の場合はターゲットスコアが89($71.8+17=88.8$ の四捨五入)ですから、ここからコース HDCP 17を引くと同じく72。公平であることが証明されました。

大人数の男女混合競技で、しかも男女が別々のティーからプレーした場合でもこの方法を活用すればそれぞれのプレーヤーに適正な HDCP を用いることができます。このような競技は従来の制度では公平に競うことが困難でしたが、スロープシステムなら開催可能なのです。

ほかにも、異なるコースで同時に競技を開催して総合順位を決めることができるなど、さまざまな活用法があります。スロープシステムでゴルフの楽しみ方が大きく広がっていくのです。

(注1) ターゲットスコアはプレーヤーがコンスタントに出せるであろうスコアという意味ではなく、あくまで目標値。4～5回に1回程度の割合で達成できるという設定になっている。

提出するスコアカードの規定が
変更されます

提出するスコアカードに関しての規定は変更が
加えられます。従来は18ホールをプレーした場合の
みスコアカードを提出していましたが、新制度では7
ホール以上プレーしていれば提出することになるの
です。

プレーしたホール数が7ホール以上、12ホール以
下だった場合は9ホールのスコアを、13ホール以上
プレーした場合は18ホールのスコアを提出しなけれ
ばならないと定められています。つまり、1.5ラウンドプ
レーした場合の最後の9ホールのスコアや、日没や
悪天候などで18ホールのプレーが完了できなかった
場合でもスコアカードを提出することが出来るので
す。プレーしていないホールに関しては、そのホール
のパーに、そのホールでプレーヤーが受けるハンディ
キャップストローク(注2)を加えたスコアを記入します。

HDCPインデックス取得に必要なスコアカード枚
数も変わります。従来は10枚が必要で、うちディファ
レンシャルベスト5枚がHDCP算出に採用されてい

ました。新制度では20枚中ベスト10枚が原則です
が、5枚以上提出すればHDCPインデックスが発行
されますので、初めて取得する方も従来よりも少ない
ラウンド数でもHDCPインデックスが取得できるのです。

また、HDCPインデックス算出にあたり、提出され
たスコアカードの有効期限は従来がプレー日より2
年でしたが新制度では無制限になるなど、ほかにも
いくつかの変更点があります。

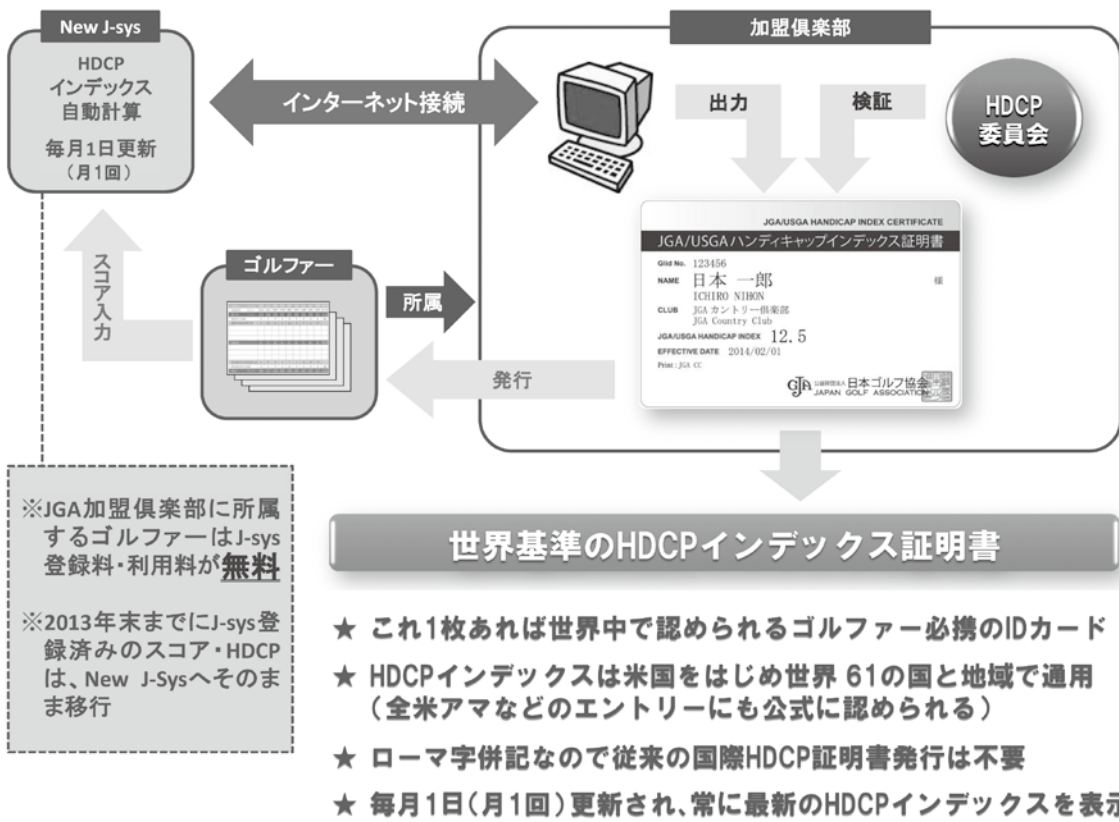
発行されるHDCPインデックス証明書はスロー
プシステムを採用している世界61の国と地域で使
用可能です。従来、海外のコースでHDCP証明書
が必要な場合は国際HDCP証明書を別途発行し
てもらう必要がありましたが、それが不要になります。
また、全米アマなど国際的な競技のエントリーにも日
本で発行されたHDCPインデックス証明書が有効
になります。HDCPインデックス証明書は世界中で
認められるゴルファー必携のIDカードとなるのです。

(注2)スコアカードに記入されているハンディキャップナンバーの少ないホール
からHDCPに応じて1ストロークずつ加える。HDCP10のプレーヤーならスコ
アカードに記入されているハンディキャップナンバー1～10のホールに各1ス
トロークずつ、HDCP20のプレーヤーならハンディキャップナンバー1と2の
ホールに2ストローク、同3～18のホールに1ストロークずつ加えることになる。

【スロープシステムと現在のJGAハンディキャップの主な相違点】

	スロープシステム	現在のJGAハンディキャップ
提出するスコアカード	7ホール以上プレーしていれば提出	18ホールをプレーした場合のみ提出
HDCP査定に必要な スコアカード枚数	20枚(うちベスト10枚で査定)。ただし、5枚以上 提出すれば20枚に満たなくてもHDCPインデックス が発行される	10枚(うちベスト5枚で査定)
HDCP更新と有効期限	毎月1日(月1回)に更新	更新はスコアが提出される都度、証明書有効期限 6ヶ月
ストロークコントロール	コースHDCP スコア上限 9以下 ⇒ ダブルボギー 10～19 ⇒ 7 20～29 ⇒ 8 30～39 ⇒ 9 40以上 ⇒ 10	HDCP スコア上限 +～0.4 ⇒ 1オーバー 0.5～18.4 ⇒ 2オーバー 18.5～36.4 ⇒ 3オーバー 36.5～50.0 ⇒ 4オーバー
HDCP上限	男子36.4 女子40.4	男女とも50.0
トーナメントスコア	トーナメントでの優れたスコアを HDCP査定に追加採用	特に規定なし
特殊な競技での運用	団体戦、男女混合競技、異なるティーを使用する 競技などでのHDCP運用方法を規定	特に規定なし

【世界基準のHDCPインデックス証明書発行の流れ】



新制度への移行について

スロープシステムの導入にあたって必要なのが
コースレーティングの再査定とボギーレーティングの
査定、及びJGA/USGA公認スロープレーティング
の発行です。現在、査定に関しては鋭意作業を進
めておりますが、2014年1月1日の正式運用開始ま
では加盟全コースを終えることはできません。査定
が完了しないコースに関しては、机上で査定させ
ていただき、2013年末までに「机上スロープレー
ティング認定書」を発行します。また、「コースHDCP換
算表」も全コースに配布されます。「机上スロープ
レーティング認定書」を発行したコースに関しては、
できる限り早期に実査定を行えるよう、各地区連
盟と連携して取り組んでいきます。

現在、各倶楽部に導入していただいている
「J-sys」については自動的に2014年から運用す
る「New J-sys」に切り替わります。倶楽部側に作

業的な負担が発生することはありません。

また、現在JGA加盟倶楽部に所属しJ-sysを
利用していただいている方については、2013年末
までにJ-sysに登録されたスコア・HDCPが、その
まま2014年に自動的に新制度に移行されます。

なお、JGAではノンクラブメンバーへのHDCP
インデックス取得(有償)を推進していきます。
HDCPインデックス取得の条件であるJGAクラブ会
員登録の窓口を増やし、当面は取得者100万人を
目標に取り組んでいきます。

また、実際にHDCPインデックスを使用してプレー
を楽しめる環境の整備・拡大も急務です。アンダー
ハンディ競技の普及促進や情報発信・広報活動な
ども積極的に進めていきます。

スロープシステム導入の最大の目的はゴルフのさ
らなる普及です。ゴルフの新たな楽しさを創出で
きるスロープシステムを基軸にさまざまな施策を講
じ、ゴルフ人口の拡大、ゴルフ界全体の活性化を不
退転の決意で目指す所存です。

USGA インタビュー 米国でのスロープシステムの現状

スロープシステムは米国でどのように開発され、どのように活用されているのか。コースレーティング査定セミナー講師として来日したUSGAコースレーティング&ハンディキャップディレクターのメアリー・ケイト・ケンプ氏と、同マネージャーのエリック・ラーマン氏に聞いた。



メアリー・ケイト・ケンプ氏(右)
エリック・ラーマン氏(左)

—スロープシステムはどのような目的で開発されたのでしょうか。

ケンプ ゴルフというゲームをより公平にみなさんに楽しんでもらいたいという目的で10年近い歳月をかけて研究し、1987年に正式運用を始めました。USGAの中にハンディキャップリサーチチームがあり、その中で専門家が論理的なデータに基づき、試行錯誤を繰り返しながらつくりあげていったものです。完成までの段階では実際に現場での声を数多く集め、最もいい形に仕上げたのがスロープシステムなのです。

—開発して実際に運用するまでにはご苦労があったかと思います。

ケンプ 私は当時、ジョージア州協会で働いていましたので、直接開発に携わったわけではないのですが、すべてのコースのレーティングを査定し直し、コースHDCPの換算表を配布するなど非常に手間のかかるプロジェクトだったと聞いています。このプロジェクトを成功させるにはUSGAと各地区の

協会との連携が重要でした。これはジョージア州協会での経験から実感しております。この部分がうまくいったので、スロープシステムは軌道に乗れたと思っています。

—現在、アメリカ国内での普及度はどのくらいなのでしょう。

ラーマン USGA ハンディキャップインデックスの取得者は約500万人です。アメリカのゴルフ人口は約1600万人といわれていますので、ほぼ3分の1のゴルファーが取得しているわけです。

—どのようなプロモーション活動をして広めていったのでしょうか。

ケンプ USGAでは10年ほど前からゴルフクラブのタイプを変更しました。以前は、いわゆるゴルフ場に所属するメンバーの集まりだけがゴルフクラブであるというスタンスをとっていましたが、より多くの方にハンディキャップインデックスを取得していただけるようにしようということから枠を広げて3つのタイプに分類したのです。

—具体的にはどのようなタイプ分けをされたのでしょうか。

ケンプ タイプ1は従来のゴルフ場に所属しているメンバーのクラブです。新たに加えたのがタイプ2と3。これらはゴルフ場に所属していないゴルファーの集まりです。タイプ2は社交場の組織を通してメンバーが交流し、なおかつメンバーの多数がクラブ設立以前から交流関係にある場合です。簡単にいえば、会社の仲間同士でつくったクラブといった感じです。タイプ3はインターネットなどを通じて公募し、面識のなかった者同士が集まったようなクラブ。このようなタイプのクラブでもUSGAが承認してハンディキャップインデックスを取得していただけるようなシステムにしたのです。実際、USGA内でもタイプ2のクラブを結成しており、ハンディキャップインデックスを取得していますよ。

—スロープレーティングシステムに対する一般ゴルファーの反応はいかがでしょう。

ラーマン USGAに多くの意見が届いております。「スロープシステムを使用して、非常に公平に対戦できるようになった」という好意的な意見がたくさんあります。アメリカではタイプ2やタイプ3のようなグループが多数あり、毎週さまざまなゴルフ場でコンペを開催するなどしてゴルフを楽しんでいます。ハンディキャップインデックスを持っていれば、これらのイベントにも参加できますから仲間の輪がより広がっていくことが期待できます。実際、私もこのようなオープンなグループのメンバーに加わっています。競技志向のゴルファーだけでなく、エンジョイゴルファーもハンディキャップインデックスがあれば一層楽しめるのです。

—著名人や著名なゴルファーを使ったプロモーションなどは行ったのでしょうか。

ラーマン 2009年と2010年に3人の著名人と公募で選んだ一般ゴルファー1人の計4人が全米オープン開催コースに挑戦するというイベントを開催しました。きっかけは、タイガー・ウッズ選手が「ハンディ10のプレーヤーは全米オープンのセッティングで100は切れない」と発言したことだったのです。一般公募したのはハンディキャップインデックスが10前後の方。数千通の応募がありました。

—100は切れたのでしょうか。

ラーマン 結局、100を切れたのは1人だけでした。タイガーの意見はほぼ正しかったといえるでしょう。

—現在、世界61の国と地域がスロープシステムを採用。今やスロープシステムが世界基準になっています。

ケンプ 2016年にはゴルフがオリンピックの正式競技に復帰しますので、世界でハンディキャップの基準が統一されるのは素晴らしいことだと思います。また、スロープシステムを通じて、USGAとJGAの間で新たなパートナーシップを築けたことも大きな成果です。個々のゴルファーにとってはハンディキャップインデックスがあれば世界中どこに行っても公平にプレーができるというのが最大の利点だと思います。

—このシステムを使えば、世界規模のコンペを開催することも可能ですね。

ラーマン その通りです。世界中どこでプレーしても共通のハンディキャップとして使用できますから、世界中でいくつものゴルフ場を利用して同時にコンペを開催することもできるのです。

—日本がスロープシステムを採用することで、どのような効果が期待できるのでしょうか。

ケンプ 日本とアメリカでは文化が違いますから明確にお答えすることは難しいと思います。ひとつ言えるのは、スロープシステムについてのセミナーを日本で開催して、出席者の方々が非常に熱心に取り組んでいる姿に感銘を受けたということです。システムの移行は簡単ではありませんが、長い視野に立ち、一步一步しっかりとステップを踏んでいけば必ずうまくいくと信じています。

ラーマン このシステムはUSGAで開発されたものですが、日本で使っていただく中でさまざまな意見をフィードバックしてもらい、今後さらにいいものに発展させていくという作業と一緒にできればいいと思っています。

—スロープシステムを通じてゴルファーに新たなゴルフの楽しさが伝わり、ゴルファーの増加につながることを期待しています。

ラーマン 私たちもそう期待しています。さきほどお話ししたタイプ2、タイプ3のクラブのメンバーにこのシステムを広めることができれば一気に活性化されると思いますので、ゴルフのさらなる普及に対しても非常に効果があると考えています。

—本日は、ありがとうございました。

構成・文 宮井 善一

2014年1月1日から

オフィシャルハンディキャップを取得して、
もっとゴルフを楽しみませんか？

日本のハンディキャップが 変わります

日本で唯一のオフィシャルハンディキャップである「JGAハンディキャップ制度」が、2014年1月1日から新制度となって正式に施行されます。新たなJGAハンディキャップ制度は、全米ゴルフ協会(USGA)とライセンス契約を締結し、世界61の国と地域で採用されているUSGAのハンディキャップ制度に準拠したもので「世界基準」といえるハンディキャップ制度です。

《2014年から何が変わるの?》

新たなJGAハンディキャップ制度で、どこのコースに行っても
「公平に」プレーすることが出来るようになり、ゴルフプレーがより楽しくなります。

- ① プレーするコース・ティーインググラウンドによって、自分のプレーするハンディキャップが決まります
(換算表によって、適正なプレーイングハンディキャップが、すぐにわかります)。



②

男性と女性と一緒にコンペに参加する場合、
男性がレギュラートイー、女性はレディースティーで
プレーをしても、適正なハンディキャップで
コンペが楽しめます。

